

分科会名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> 社会科 </div> 令和4年6月15日（水）	会 場 川崎市立中野島小学校 <hr/> 助言者 川崎市立小学校社会科研究会副会長 川崎市総合教育センターカリキュラムセンター指導主事 <hr/> 授業者 川崎市立中野島小学校 <hr/> 司会者 <hr/> 記録者 <hr/> 世話人 <hr/> 出席者数 100名
---	---

1 提案の概要

3年生「市の様子 ～もっと知ろう！川さきのこと～」
 5年生「お米大好き！もっと知りたいお米作りのヒミツ！」

2 研究協議の概要

**3年生
指導講評【研究会副会長】**

子ども達の声を集めて学習問題を作り上げたり、予想やまとめなど項目に分けてきちんとノートを取らせたりするなど、担任が丁寧に指導してきたことが、子どもたち発言やノートから伝わった。

3年生では社会科の学習の進め方を学ばせることが大切である。自分たちの疑問が解決する経験を積むことを繰り返していくようにしていきたい。

資料提示に関しては、内容や提示方法、順番などをよく考えていく必要がある。子どもに提示する前に、その資料がそのままいいのか、学習のねらいに合わせて加工する必要があるのかも考慮したほうがいい。また、3年生の市の学習では「副読本かわさき」を活用していきたい。しかし、見開き1ページでも多くの情報が掲載されているため、どの部分に着目させたいかを教師側がきちんと考えておくべきである。まずは、教師が「川崎市」をどのように捉えるかが大切であるため、「副読本かわさき」を読んでおくとうい。

**5年生
指導講評【研究会副会長】**

子どもの実態をつかみ、教師との信頼関係ができていることが伝わる授業だった。また、学校での米作りの実績がある「中野島の利点を生かした授業」であった。

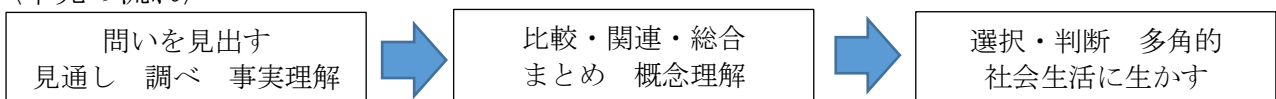
学習計画は「自分事」として進めていくためとても重要。今日の授業では「どこで」「どうやって」「どれくらい」と3つを同時に示したが、話し合いを通して予想に困っていた子どもだんだんと視点が作られていった。そうしたことで子どもの言葉で学習問題をつくることができ、「もっと知りたい」「予想が深まった」というふり返りにつながっていった。

5年生の授業で大切な視点は「多角的な見方」。現状では「輸送」「消費者」が子どもたちの言葉としてでてこなくてもよいが、今後、教師が意識して進めていくことが大切。

3 今後の課題

研究のまとめ 【指導主事】

〈単元の流れ〉



今年度はGIGA 端末もステップ2に進んでいる。教科書や資料集、副読本など多くの資料があるが、デジタル教材の使い方もこれからの授業で提案して欲しい。